戦略目標 1

迅速なトップダウンでの意思決定の下、SBIグループの完全なAIドリブン化を断行

急速な進化を遂げるAIは、社会を根本から変革する可能性を秘めています。
未来を見据え、グループ全体をAIネイティブな自律型組織へと速やかに順応させ、
次世代金融の創造と持続的な成長を実現します。

AI活用を通じて、新たな商品・サービスの創出と業務変革を一体的に推進

既に欧米の有力金融機関はAIドリブンな組織への移行に向けた変革を進めており、ビジネスを展開する上でAIの存在を前提とする時代が到来しています。SBIグループは、AIによる事業環境の変革を、顧客に新たな価値を提供する「攻めのAI活用」と、業務プロセスを抜本的に高度化・効率化する「守りのAI活用」を一体的に進める好機と捉えています。戦略的パートナーであり、2025年9月に当社の持分法適用関連会社となったRidge-i社との協業を通じ、グループ全体を完全にAIドリブンな組織へ再構築します。

「攻めのAI活用」における中核施策として、当社グループが保有する膨大な金融領域の知見とデータを反映した「SBIグローバル金融AIコンシェルジュ」の構築を目指します。同コンシェルジュは、顧客の金融リテラシー、関心、資産状況、ライフイベント等に応じて、資産運用、家計管理、相続等の幅広い金融ニーズを横断的に把握し、当社グループ各社のサービスの中から最適な選択肢を提示することを想定しています。また、AIとオンチェーン決済を繋げることによる高頻度・小口・リアルタイム取引の実現も視野にあります。国内に留まらず、言語等の壁を越えて機能するグローバルな金融インフラとして、世界中のあらゆる人に最適な金融体験を提供することを目指します。

一方、「守りのAI活用」においては、グループ内業務の徹底的なAI活用に加え、AIを前提とした業務再構築による自動化・高度化を推進します。グループCEO直下に強力なAX戦略推進機能を置き、グループ全体の金融知見、データ、計算資源を一元的に活用できる体制を整備することで、業務プロセスそのものをAIネイティブなものへと変革していきます。

また、AIの急速な進化に即応したサイバーセキュリティ対策についても、グループ横断的に取り組みを推進します。戦略本部主導で最新のAIセキュリティの検証体制を設け、その知見を速やかにグループ全体に展開しています。AIによる攻撃に対しては、専門チームによる継続監視・分析に加え、金融業に準拠したガバナンス統制等を一体的に組み合わせ、先手を打つ形で対応を進めています。更に、グループ各社に対してAIを活用した脆弱性診断ツールの導入を徹底推進することで、商品・サービスのローンチ前にAIリスクを排除する取り組みを進めています。

当社グループは、これらの取り組みを単独で完結させるのではなく、AX戦略やWeb3等の領域で専門性を持つトッププレーヤーとの共創を通じて推進します。次世代のAIネイティブな自律型組織へと変革し、認知から信頼までの3層を一気通貫で提供することで、社会に新たな価値を創造し続けます。

認知から信頼までの3層を一気通貫で提供



SBIグループ単独で完結するものではなく、
AX戦略やWeb3等の領域で専門性を持つトッププレーヤーとの共創によって実現を目指す



早期にSBIグループを AIネイティブな金融機関へと変革

柳原 尚史　SBIホールディングス 社外取締役
Ridge-i 代表取締役社長

AI活用のリスクは、変革を恐れて使わないこと

私は現在、SBIグループの三大戦略目標の一つである「グループ全体の完全なAIドリブン化」の推進に携わっています。金融業界が直面する最大のリスクは、「AIを使わないこと」です。金融業はリスク管理やコンプライアンスが極めて重要な業界です。AIの出力は確率的であり、時に誤った情報が出ることもあります。また、AIの進化に伴うサイバーセキュリティリスクも増大しています。

しかし、AIはあらゆる産業で極めて大きな構造変革を引き起こしつつあり、活用しなければ近い将来、ほとんどの企業が今のポジションすら維持できない状況になると考えられます。AIネイティブな新興企業が大企業をディスラプトし始めており、時間的余裕はあまりありません。

AIを活用する前提で業務構造を迅速に変革しつつ、金融機関として求められるリスク管理と両立させることが重要な経営課題です。

最適な金融体験を自律的に届ける

こうした状況の中、SBIグループは経営層が主導してAIを活用した組織変革を推進している点に大きな特長があると感じています。SBIホールディングスとRidge-i社は2025年9月に資本業務提携を行い、私自身も2026年より本格的にSBIホールディングスのAXプロジェクトに参画し始めました。既に体制は整い、これほどの短期間で取り組みが具体化したことに、SBIグループの高い実行力を実感しています。

そうした中、私はAIネイティブでの業務フローの変革を推し進めるとともに、SBIグループのAI革命への戦略的指針を「あらゆる人に最適な金融体験を自律的に提供できるAIエージェントを開発」と定めました。金融業界では、分析力や知識の差が投資成果の差に繋がります。しかし、そうした情報処理はAIが本質的に強みを有する領域です。AIによってこうした格差を埋め、誰もが最適な金融行動を体感できるAIエージェント「SBIグローバル金融AIコンシェルジュ」の開発を目指します。

また、AI活用の推進は、「SBIグループのオンチェーン化」という戦略目標とも密接に結び付いています。AIエージェントが顧客の代わりに自律的に取引を担う時代では、高頻度かつ小口の取引が増加することが予想され、高速かつ低コストでそれらを処理できるブロックチェーン基盤の新たな金融システムが求められます。更に、あらゆる資産がトークン化され、決済がオンチェーン上でリアルタイムに行われるようになれば、顧客にとって株式や不動産といった資産区分の意味合いが薄れていくため、銀行・証券・保険と業態ごとに会社が分かれた組織では、変化に対応できないことが想定されます。そこでSBIグループでは、AIによる資産運用や商品組成等を担う「サービスの層」と、決済やトークン基盤を担う「インフラの層」として有機的に再統合することにより、「AI×Web3」による自律経済圏を構築することを目指しています。ここに顧客接点となるネオメディア事業を統合することで、更に顧客の金融体験が変わるものと考えます。

SBIグループは「顧客中心主義」のもと、証券事業で「ゼロ革命」（オンライン取引における国内株式の売買委託手数料の無料化）を実現しました。次の目標として、AIエージェント開発を通じた顧客の「悩みゼロ」実現に向けた取り組みを進めています。

世界に通じるAIネイティブな金融グループへ

私が何より大切にしているのは「言うだけで終わらせない」ことです。Ridge-i社では、これまで最先端技術の社会実装を推進し、技術を実用化に繋げることを使命としてきました。日本最大級の顧客基盤を持つSBIグループと共に、金融業界のAI改革という領域に挑むことは、その集大成と呼べる取り組みであると感じています。技術の進化が日進月歩で様変わりする今日、SBIグループのAIドリブン化に向けた取り組みは、構想を語る段階から実装する段階へと、一気に歩を進めなければなりません。まずは全役職員に意識変革を促し、エポックメイキングとなる象徴的な成果の創出を目指します。そうした成果を起点として構造改革を推進し、AIネイティブな自律型組織への移行を進めていきます。SBIグループを、AIを最も有効活用して世界をリードする金融グループへと変革する挑戦は、既に始まっています。

戦略的指針

あらゆる人に最適な金融体験を自律的に提供できるAIエージェントを開発